

5. 水族館記録 2009年

1. 研究・教育

- 1月7日 熊野 岳 助教と院生4人（大阪大学大学院理学研究科西田研究室）が研究用マボヤ約400個体を搬入し、大型実験水槽（第3水槽棟作業室）を8.0-8.5℃に冷却して蓄養を始めた（研究概要については本年報第21巻、8ページ参照）。その後、4月24日までに数度回収に訪れ蓄養を終了した。
- 2月12日 岡西政典 院生（東京大学理学研究科）に、タコクモヒトドとアカテヅルモヅルの死亡個体を研究用標本として提供した。
- 4月1日 龍谷大学環境サイエンスコース（学生16人、教員3人）の見学が行なわれた。
- 4月12日 京都大学理学研究科インターラボ（生物学専攻院生35人）の見学を指導した。
- 4月26日 和歌山大学教育学部臨海実習（学生17人、教員4人）の見学が行なわれた。
- 5月4日 京都大学全学共通教育ボケゼミ（学生11人）の見学を指導した。
- 5月19日 諏訪僚太 博士研究員が、第3水槽棟作業室で海水中に溶解する二酸化炭素の影響を調べる実験の準備を開始した。
- 5月28日 近畿大学農学部環境管理学科の環境生態学専門実験・実習（学生26人、教員2人）の見学を指導した。
- 5月28日 カイメン類10種類をいくつかの水槽から収集し、NaGISA主催のカイメン分類ワークショップに提供した。
- 5月31日 奈良県立奈良高等学校普通科のサイエンスツアー（生徒15人、教諭2人）の見学を指導した。
- 6月21日 放送大学京都学習センター面接授業（19人）の見学を指導した。
- 6月23日 奈良教育大学教育学部の臨海実習（学生15人、教員3人）の見学を指導した。
- 6月23日 白浜町立白浜第二小学校5学年行事「学レク」（磯採集）（生徒17人、教諭2人、父兄14人）を指導した。
- 6月30日 白浜町立北富田小学校3学年「社会見学」（生徒33人、教諭3人）でバックヤード見学を指導した。
- 7月5日 白浜町立白浜第一小学校6年生3人による国語のパンフレット作りのための取材に協力し、バックヤード見学を指導した。
- 7月5日 大阪教育大学教育学部教員養成課程理科教育講座（学生19人、教員1人）の見学を指導した。
- 7月13日 大阪市立大学理学部の臨海実習（学生18人）の見学を指導した。
- 7月18日 「さんすい会」（京都大学職員勉強会）（11人）の見学を指導した。
- 7月21日 滋賀県立膳所高等学校の第40回生物実験旅行（生徒20人、教諭5人）の見学を指導した。
- 7月27日 奈良女子大学附属中等教育学校のSSHサイエンス「夏の学校」（生徒22人、教諭3人）の見学を指導した。
- 8月6日 京都大学臨海実習第1部（一回目）（学生11人）の見学を指導した。
- 8月18日 関西学院大学理工学部生命科学科の臨海実験・実習（学生20人、教員6人）の見学を指導した。
- 8月30日 大阪大学理学部生物学臨海実習の見学を指導した。
- 9月1日 吉原大貴 4年生（北海道大学理学部生物科学科）にムラクモケヤリとイバラカンザシを研究用に提供した。
- 9月4日 遊佐陽一 准教授（奈良女子大学理学部生物科学科）が、シラヒゲウニの逃

避行動を観察するために、トウカムリを飼育展示している303号水槽の飼育水を採取した。

- 9月 8日 京都大学臨海実習第1部（2回目）（学生11人）の見学を指導した。
- 10月 4日 兵庫県立西宮南高等学校の白浜臨海実習（生徒11人、教諭3人）の見学を指導した。
- 10月18日 田辺市立第二小学校2年生（生徒87人）の見学中に質問に答えた。
- 10月19日-23日 森田英嵩 4回生（愛媛大学農学部生物資源学科）に対し、博物館実習を行なった。
- 11月16日 和歌山県教育センター学びの丘主催「海の生物に関する観察・実験基礎講座」（19人）の見学を指導した。
- 11月 6日 兵庫県立姫路飾西高等学校1年SSC海洋実習A班（生徒19人、教諭2人）の見学を指導した。
- 11月10日 環境総合テクノス（株）（2人）のpHセンサー比較試験における実験場所の下見に対応した。
- 11月15日 放送大学京都学習センター面接授業（18人）の見学を指導した。
- 11月19日 中山路小学校1、2年生（生徒7人、教諭2人）の見学を指導した。
- 11月20日 兵庫県立姫路飾西高等学校1年SSC海洋実習B班（生徒16人、教諭2人）の見学を指導した。

2. 普及

- 1月 7日 「冬休み解説ツアー」を終了した。教員5人と技術職員3人とで、12月25日から14日間行なった。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明し（定員各10人）、表側40人、裏側69人が参加した。
- 2月 2日 和歌山放送ラジオが取材し、生放送した。
- 2月 7日 「バックヤード体験学習」（13:30-15:30、和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行なった。参加者は16人。
- 2月12日 「るるぶ」（旅行情報誌）が、モヨウフグとコクテンアオハタを取材した。
- 3月19日 紀伊民報連載記事「水族館へ行こう！」（約800字、カラー写真入り）が、80回をもって終了した。2007年7月3日から教員7名と技術職員3名で執筆した。
- 3月25日-4月8日 「春休み解説ツアー」を教員6人、技術職員3人で実施した。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明し（定員各10人）、表側77人、裏側102人が参加した。
- 3月31日 紀伊民報が「春休み解説ツアー」の様子を取材した（4月10日付）。
- 4月14日 紀伊民報が、「水族館の磯採集体験」と「バックヤード体験」の参加募集記事を掲載した。
- 4月17日 紀伊民報が、ゴールデンウィーク向けの電話取材をした。
- 4月25日 「水族館の磯採集体験」（9:30-12:00、雨天のため予備水槽の動物の同定学習などを行なった）と「バックヤード体験」（13:30-15:30）（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行なった。参加者は前者7人、後者14人。
- 5月23日 「水族館の磯採集体験」（9:30-12:00）と「バックヤード体験」（13:30-15:30）（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行なった。参加者は前者19人、後者18人。
- 5月28日 「水族館ピア」（情報誌）の取材アンケートに対応した。

- 5月29日 リーフレットを全面的に改訂・更新した。
- 6月 1日 水族館のウェブページに紀伊民報連載記事「水族館へ行こう！」全80回分と新リーフレットのPDFファイルを掲載した。
- 6月 3日 「関西ファミリーウォーカー09年7月号」（旅行情報雑誌）の取材に対応した。
- 6月20日 「水族館の磯採集体験」（9:30-12:00）と「バックヤード体験」（13:30-15:30）（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行なった。参加者は前者16人、後者17人。
- 6月24日 ぴあウェブサイト「こどもと遊ぼう」に対応し、当館の基本情報を掲載した。
- 7月18日-8月31日 「夏休み解説ツアー」を教員6人、技術職員3人で行なった。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・解説し（定員各10人）、表側240人、裏側281人が参加した。
- 7月20日 白浜町中央公民館羽衣分館一行24人に展示水槽を案内・説明した。
- 9月10日 「ねこパブリッシング」（出版社）の電話取材に対応した。
- 9月12日 NHK／（有）ディレクションズが、当館で飼育展示していたウツカリカサゴの映像（2000年3月19日「NHKクイズ日本人の質問」で放送）をNHK教育「天才てれびくんMAX・ビットワールド」（9月25日放送）で引用したいという申し出があり承諾した。
- 10月12日 「歩む会」一行（8人）を案内した。
- 10月18日 自然観察教室（白浜町立児童館・白浜生活環境課・南方熊楠記念館共催）一行の案内をした。
- 10月23日 「クイズラリー」の問題を更新した。
- 10月31日 「バックヤード体験」（13:30-15:30、和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行なった。参加者は13人。
- 11月16日 「海の生き物から学ぶ」（白浜町中央公民館との連携講座）の3度目の講演会（19:30-21:00、参加者46人）を中央公民館集会室で行なった。演者とタイトルは、白山 義久 センター長・所長「海の中の驚く生き物の話」。
- 11月28日 「バックヤード体験」（13:30-15:30、和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行なった。参加者は12人。
- 12月7日-11日 毎日、朝日、産経、読売、紀伊民報新聞各社と、毎日、NHKテレビ各社が、イセエビの色彩変異個体（オレンジ色）を取材した。
- 12月22日 網にかかったオニカマスと同定依頼とコメントについて、紀伊民報の取材に対応した。
- 12月26日-1月7日 「冬休み解説ツアー」を教員5人、技術職員3人で行なった。10時45分から表側の展示水槽を「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」として、11時15分から裏側を「バックヤードツアー」として案内・説明した（定員各10人）。

3. 機械・設備

- 2月14日 第4水槽棟機械室の第1循環系統（常時冷却）の温度センサーが不良になり、4月3日に部品を交換した。復旧するまでは手動で温度調節を行なった。
- 4月15日 ポイラー（第2水槽棟）と空冷ヒートポンプチラー（第4水槽棟）の運転を停止し、各循環系統の加温を終了した（水温上昇に伴う冬運転の停止）。
- 6月 8日 第2水槽棟2階の有圧換気扇（3φ200V・50cm）を鉄製からステンレス

製に更新した。

- 6月12日 第1水槽棟地下濾過槽の逆洗バルブ6基のうち2基を業者が取り換えた。また、濾過槽へ新鮮海水を直接供給するための配管作業を行なった。
- 7月14日-9月14日 水冷ウォーターチリングユニット(第1水槽棟)と空冷ヒートポンプチラー(第4水槽棟)を夜間運転し、各循環系統の水温を25-28℃に維持した(夏季の弱冷運転)。
- 7月31日 餌料用冷凍庫(第4水槽棟)1台を更新した。
- 10月20日 地下重油タンク(4000ℓ)と配管の漏洩検査を業者が行ない、異常がなかった。
- 11月4日 ボイラー(第2水槽棟機械室)の大掃除を行なった。
- 11月9日 消防設備の定期点検を業者が行なった。
- 11月24日 空冷ヒートポンプチラーとボイラーを運転し、101号水槽と第2水槽棟の各循環系統、第3、4水槽棟の第2~4循環系統を19~21℃に維持した(水温下降に伴う冬運転の開始)。
- 12月15日-17日 大型実験水槽(第3水槽棟)でマボヤを蓄養するための準備作業を行なった。冷却装置・ポンプ・照明の据え付け・配管を行ない、12月22日から冷却(8.0-8.5℃)を始めた。
- 12月16日 高圧受変電設備の定期点検を業者が行なった。点検中(8:00-10:00)は自家発電装置を運転して主要箇所へ送電した。これに併せて低圧設備の定期点検も行なった。
- 12月22日 403号水槽にライブカメラのハウジングケースを業者が設置した。

4. 収集・飼育・展示

- 1月8日 ナヌカザメ雌(407号水槽、全長約1m)が1卵を産んだ。2005年7月20日にこの水槽で始めて産卵して以来、106個目になる。卵は、ヤギの骨軸などに巻きつけ407号水槽に吊るして展示中。この水槽ではオス1尾(全長約90cm)が同居している。その後、年末までに1~2個の卵を22回、計29個産んだ。なお、この水槽では水温を年中15-16℃に維持している。
- 2月28日 餌付けが終了したマツカサウオ15尾を410-1号水槽(「キンメダイ目」)に収容・展示した。これらは2008年11月6日に小谷博紀氏(みなべ町堺漁港)から購入したもので、予備水槽で強いエアレーションを起こし、オキアミを舞い上がらせることによって摂餌を促していた。
- 3月3日・24日 購入動物の値段改訂を一部の動物で行なった。
- 3月4日 イセエビ類6種28個体を、これまで3つの水槽に分散して展示していたが、224号水槽にまとめた。また、226号水槽にはイセエビのみ10個体をアジ類などの魚と同居させて展示した。
- 3月12日 チゴガニ・ヤマトオサガニなどを田辺市内之浦干潟から採集し、401号水槽(「干潟」)に収容した。
- 4月1日・3日 タカアシガニ雄3個体を、よし善商店(鮮魚商)から購入した。みなべ町堺漁港に水揚げされたもの。
- 4月9日 ナヌカザメ幼魚1尾(全長25cm、302号水槽)の体表につく寄生虫(種名不明)を駆除するため淡水浴を6分間行なった。
- 4月13日 306号水槽の1区画でヤドカリ類の整理を行なった。この水槽で展示中のヤドカリ類はホシゾラホンヤドカリ・クロホシホンヤドカリ・クリイロサンゴヤドカリ・ツマジロサンゴヤドカリ・フチドリサンゴヤドカリ・ブチヒメヨコバサミ・コガネオニヤドカリなど計14種20個体。

- 4月15日 シマヒメヤマノカミ1尾（全長約6cm）を予備水槽から403号水槽へ展示した（2010年10月現在、飼育継続中）。2008年11月1日、円月島北西で潜水採集したもの。
- 4月20日-22日 第4水槽棟第2循環系統の濾過槽のディスクトレーナーが破損し、濾過砂が貯水槽に大量に流入した。そこで、内径25mmの塩ビパイプを組んで可動式のエアリフトを作り、貯水槽の底から砂を吸い出して濾過槽に戻した。5月18日には、第1循環系統貯水槽に流入した砂を同様に返した。
- 5月7日 シマガツオ1尾（全長20cm）を西山 修氏（和歌山市雑賀崎漁師）より購入し、407号水槽（「深み 陸棚下部にすむ魚」）に展示したが、5月11日に行方不明になった。他魚に捕食された可能性がある。
- 5月19日 みなべ町堺漁港からのイセエビ刺網・ヒラメ刺網などにかかった動物の購入や採集による今季の収集活動を終了した。刺網漁期間中（10月～4月）、ほぼ週1回のペースで収集に訪れている。
- 6月2日 ヤマトペンテンウニ5個体（名古屋港水族館より受贈）を302号水槽（周年15-16℃）に、吊り水槽を設置して展示した。
- 6月9日 ヒメヌマエビ14個体を305号水槽（「川と海を行き来するエビ類」）の中に、小水槽を設置して展示した（2008年9月以来の再展示）。また、6月29日にも11個体を追加した。
- 6月10日 マダコ1個体をよし善商店より購入し、208号水槽（「軟体動物 イカ綱」）へ展示した。
- 6月11日-13日 第4水槽棟第2循環系統の魚類で発生したベネデニア症の処置のため、「ハダクリーン」を混ぜた餌料を投与した。
- 6月11日 紀伊民報連載記事「水族館へ行こう！」全80回分をまとめた冊子を、読書コーナーに設置した。
- 6月16日-23日 白点病が第4水槽棟第2循環系統の魚類に認められたため、硫酸銅を3回投与した。
- 6月21日-7月17日 カゴカキダイ幼魚15尾（全長2-3cm）とイソギンポ17尾（全長4.5-7cm）を、水槽内で自然繁殖する小型イソギンチャクの駆除者として第2水槽室の19個の水槽へ分配収容した。それまで一年間、予備水槽も含めて駆除者として働いたカゴカキダイ39尾（全長11-15cm）は北浜へ放流した。また、カワハギ幼魚2尾（全長4cm）を、底砂で自然繁殖するニホンウミケムシの駆除者として2つの水槽へ収容し、一年間駆除者として働いて成長したカワハギ1尾（全長26cm）は411-3号水槽（「フグ目」）に移した。
- 6月29日-7月1日 第1・2・4水槽棟の各循環系統の濾過槽15槽を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行なった。
- 7月1日-26日 白点病の予防とガラス・壁面に繁殖するチギレイソギンチャクの駆除のため、101号水槽（水量240t）に硫酸銅を計7回投与した。
- 7月6日 ナスカザメ1尾が407号水槽に吊り下げていた卵から孵化し、302号水槽に展示した。産卵日は特定できなかった。その後、8月4日にも1尾が孵化した（産卵日2008年9月29日）。
- 7月8日 6日夜から7日未明にかけての大雨（白浜240mm）による塩分濃度低下の影響で、開放式水槽のタコアシサンゴ・ジュウジキサンゴ・アカヒトデなどが衰弱し、12日までにすべて死亡した。死亡したタコアシサンゴ4個体のうち2個体は1999年12月に淡青丸（東京大学海洋研究所）で串本沖で採集したもの。9日には開放式予備水槽のセミエビ・ゾウリエビ・イシダ

タミヤドカリ・ケスジヤドカリなどの甲殻類8種29個体が死亡し、わずかにセミエビ2個体のみ生残した。

- 7月13日 412号水槽（「スズキ目 フェダイ・イサキ・タイ・フェフキダイ各科」、水量9.4t）の收容魚類がそれぞれ成長して混み合ってきたので、ヘダイ・クロダイ・キチヌ計30尾（全長30-50cm）を間引きし北浜へ放流した。
- 7月22日 サカサクラゲの幼クラゲが予備水槽の2槽（各水量30ℓ、親クラゲ23個体）で多数出現したので、40個体（傘径3-8mm）を集めて別の水槽で飼育を始めたが、8月4日に給水バルブが詰り全滅した。
- 8月11日 ムカデメリベ1個体（体長12cm）を第4水槽棟地下の第3循環系統濾過槽内で発見・採捕した。403号水槽（魚類以外にイシサンゴ・巻貝・ウニ類などの無脊椎動物も飼育）から、まだ小さい時に排水口のネット（径7.5mm）を通過して流れ込んだか、濾過槽に直接流入する開放式給水を通じて外海水から流れ込んで成長したかのどちらかであると考えられる。なお、7月27日にはこの濾過槽を逆洗している。
- 8月12日-15日 第4水槽室の魚類にベネデニア症が認められたため、「ハダクリーン」を混ぜた餌料を投与した。
- 8月22日 長期飼育のトラフグが死亡した。全長51cm、体長42.5cm、湿重1.8kg。2004年9月28日に岡本昭生氏より購入したもの（袋港で釣獲。当時の全長16cm）。
- 9月1日 タコクラゲ1個体（傘径8cm）を袋湾より収集し、202号水槽に浸けたクラゲ用吊り水槽へ展示した。また9月18日にも1個体（傘径12cm）を採集し、同水槽へ展示した（11月6日まで）。
- 9月7日 カゴカキダイ幼魚5尾（全長3-4cm）を、水槽内で自然繁殖する小型イソギンチャクの駆除者として第2水槽室の5個の水槽へ分配收容した。
- 9月8日 ベニクラゲムシ6個体とセンジュウミヒドラ属の一種を、第2水槽棟第3循環系統の濾過槽より採集し、前者は228-4号水槽に小容器を入れて、その中に展示し、後者は久保田 信 准教授に研究用として提供した。
- 9月15日-18日 214号水槽の石組みに小型イソギンチャクが自然繁殖し、展示動物のウミシダ類の行動や摂食に悪影響を及ぼしていることから、水槽に淡水を張ってイソギンチャクを駆除した。
- 10月11日 ソメンヤドカリ2個体を、402号水槽（「藻場」）で自然繁殖するセイトカイソギンチャクの一種の駆除者として收容した。
- 10月19日 クロダイ（412号水槽と第4水槽棟予備水槽）の胸鰭に、アノプロディスクス症を認めたので、予備水槽のクロダイ幼魚3尾を取り出して半海水の水槽で治療を始めたが、その後完治せずに死亡した。
- 10月20日 404号水槽（「内湾・河口で育つ魚」）の大掃除に伴い、魚類の入れ替えを行なった。ギンガメアジとカスミアジの10尾（1歳魚、全長18-23cm）は101号水槽内の「幼魚育成いけす」へ、クロホシフェダイ・オキフェダイ・ヘダイなど9種58尾（1歳魚）は予備水槽へ、ウナギ2尾とシマイサキ4尾はそのまま残した。一方、予備水槽に蓄養していた0歳魚12種68尾をこの水槽に收容・展示した。
- 10月27日 業者からホンソメワケベラ・オトヒメエビ・キンチャクガニなど5種15個体を購入した。
- 10月30日 硫酸銅を魚病予防のため、101号水槽循環系統と第4水槽棟第2循環系統に投薬した。
- 10月30日 ナンヨウツバメウオ幼魚2尾とマツダイ幼魚1尾とで、306号水槽の1区画

- で「枯葉擬態」展示を昨年に引き続き再開した（2009年末展示継続中）。
- 11月6日-9日 展示中のマダコが死亡したため、この機会に水槽（208号）に淡水を張ってニホンウミケムシの駆除を行なった。10日に、マダコ2個体をよし善商店（鮮魚店）より購入して展示した。
- 11月10日-13日 第4水槽室の魚類にベネデニア症が認められたため、ハダクリーンを混ぜた餌料を投与した。
- 11月19日 イセエビの色彩変異個体（オレンジ色）を向井一二氏（みなべ町堺漁港）より購入し、12月7日に303号水槽に仕切りをして展示した（2009年末展示継続中）。
- 11月24日-12月1日 第1・2・4水槽棟の各循環系統の濾過槽15槽を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行なった。
- 11月24日-12月2日 405、406、409～412号水槽（魚類のみを展示している6個の水槽）の大掃除を、水槽内およびその周辺の補修工事とのタイミングを計りながら行った。いくつかの種では他の水槽へ移収したり、予備水槽の魚と交換したりした。また、411-2号水槽のカサゴ12尾（全長25-30cm）、412号水槽のヘダイ12尾（全長40-50cm）・クロダイ7尾（全長40-45cm）など、計8種39尾を南浜と北浜に放流し、間引きを行なった。
- 11月26日-30日 402号水槽（「藻場」）に自然繁殖したセイタカイソギンチャクの一種を駆除するために淡水を張った。
- 12月 5日 101号水槽（240m³、第1水槽棟）の地下濾過槽2槽の亀裂補修工事を業者が行なうため、これらの濾過槽の水を抜いた。工事期間中（17日まで）、飼育海水は残り4つの濾過槽で循環させた。
- 12月 9日 リンボウガイ・ヤツマタスナギンチャク・ハコクモヒトデなどの底生動物（深見 裕伸 助教が白浜町三段壁沖水深100-300mでドレッジ採集）を、第2水槽棟に小容器2個を設置して収容した（周年15-16℃に維持した循環水を供給）。
- 12月 9日 チゴガニ・オキシジミ・フトヘナタリなどを田辺市内之浦干潟から採集し、401号水槽（「干潟」）に収容した。また、泥を約80ℓ採取し、追加した。
- 12月14日 403号水槽（「岩礁 黒潮の豊かな生物」）で展示動物の入れ替え作業（主に0歳魚に更新）を行ない、同時に底砂の洗浄などの大掃除をした。また、オヤビッチャ・ヒブダイなどの一歳魚計3種18尾を南浜へ放流した。
- 12月14日-17日 101号水槽（240m³）地下貯水槽の貫通パイプ周辺からの漏水補修工事を業者が行なうため、水位をふだんより170cm下げて飼育海水を循環させた。
- 12月15日-19日 206号水槽（「軟体動物 マキガイ綱」）で、自然繁殖する小型イソギンチャクを駆除するために淡水を張った。
- 12月16日 サメハダテナガダコ1個体を白浜町江津良で夜間に採集し、208号水槽（「軟体動物 イカ綱」）の吊り水槽に収容した。
- 12月23日 コクテンアオハタ1尾（全長35.6cm、体長29.0cm、湿重1030g）を三男次商店（有田市）より購入した。有田沖、水深30-70mの底引網で21日に捕獲されたもの。本種の入館は1997年10月以来となる（1997年の個体は413号水槽で飼育継続中）。

5. 受贈

- 1月15日-12月30日 正木彰義 氏（白浜町）より5回に及び、ワカウツボ・ミナミウツボ・ウツボ・ゴイシウミヘビなどウツボ類とウミヘビ類計6種25尾。鉛山湾、ウツボ籠。

- 2月19日 池田博美氏(田辺市)より、ハコエビ1個体(体長35cm)。沖ノ島周辺水深30m、イセエビ刺網。
- 2月21日 檜山嘉郎氏(白浜町)より、タガヤサンミナシ1個体(殻長5cm)。富田川口、打ち上げ。
- 3月16日 今岡享氏(白浜町)より、グミ27個体(体長1.5-2.5cm)。千葉県館山市波左間沖、水深8-10m、砂底。
- 5月13日-11月20日 岡本昭生氏(白浜町)より7回に及び、イソスジエビ・ゴンズイ・クモハゼ・ホシハゼ・クサフグ・カゴカキダイ・ゴマサバ・ニジギンボなど、幼魚を中心に計40種226個体。袋湾内と周辺沿岸、釣り手網。
- 5月29日-10月29日 真鍋 賢氏(白浜町)より、スジユムシ1個体(体長7cm)・カイカムリ1個体(甲幅5cm)・ミナミウツボ(全長45cm)。湯崎、網不知湾、江津良。
- 6月2日-10月29日 鈴木博之氏(白浜町)より5回に及び、カエルアンコウ2尾(全長15、21cm)とナンヨウツバメウオ4尾(全長5-10cm)。白良浜、手網。
- 6月 2日 名古屋港水族館より、ヤマトベンテンウニ5個体(殻径約2-3cm)。三重県・石川県産。
- 6月10日 梅畑善吉氏(白浜町)より、ヒガイ1個体(殻長約10cm)。田辺湾、底引網。
- 6月24日 田芝恒男氏より、センニンフグ1尾(全長38cm)。四双島付近、水深10m、釣り。
- 7月3日-11月25日 荒賀忠一氏(白浜町)より12回に及び、マハゼ・クロホシフエダイ・オキフエダイ・ヘダイ・キチヌ・クロダイなどの幼魚を中心に計19種137尾。田辺湾奥の横浦湾・安久川口・日置川口、釣り。
- 9月14日 島和敏氏(白浜町)より、エビクラゲ1個体(傘径20cm)江津良沖。(202号水槽でクラゲ用吊り水槽に展示したが、10月1日に死亡)
- 9月21日 百合朗氏(白浜町)より、アミモンガラ1尾(全長11cm)。湯崎漁港。
- 10月11日 増本明輝氏(白浜町)より、ナンヨウツバメウオ1尾(全長10cm)。網不知湾。
- 10月21日-11月20日 藪常二氏(白浜町)より3回に及び、イロカエルアンコウ2尾(全長15、17cm)・ブチススキベラ1尾(全長30cm)・ガンゼキボラ1個体(殻長7cm)。鉛山湾、イセエビ刺網。
- 10月31日・12月1日 真鍋正氏(白浜町)より、トックリガンガゼモドキ1個体(殻径7cm)、臨海北浜。ホンコンイシガニ2個体(甲幅8cm、雄)、田辺湾奥、カニ網。
- 11月 2日 正木和三郎氏(白浜町)より、ハナオコゼ1尾(全長3cm)。網不知湾。
- 11月 3日 家村博方氏(白浜町)より、ソウシハギ1尾(全長50cm)。島島周辺、釣り。
- 11月10日・12月10日 雑賀幸夫氏(白浜町)より、オオカイカムリ1個体(甲幅12cm、カイメン背負う)とオオモンカエルアンコウ1尾(全長15cm)。鉛山湾、イセエビ刺網。
- 11月10日 大江富夫氏(白浜町)より、コモンサカタザメ1尾(全長65cm)。鉛山湾、イセエビ刺網。
- 11月19日 寒川雅也氏(白浜町)より、タカクラタツ1尾(全長9cm)。臨海南浜、水深3m、グラスボートのアンカーロープに絡まる。

6. 生物観察メモ(水槽・野外)

- 1月 6日 釣人が持ち込んだカマス(死魚)を同定したところタイワンカマスだった(全長約50cm)。白浜町千畳敷のルアー釣りで約30尾を釣り上げたら

しい。

- 2月7日-17日 マメタワラ(約50cm)をひもでくくりつけ410-2,3水槽(「スズキ目 カゴカキダイ・チョウチョウウオ・キンチャクダイ・スズメダイ・ベラ・ブダイ各科」)に3度吊り下げたが、3度ともブダイとヒブダイが盛んに摂食し、翌日夕方までにはなくなった。
- 3月10日 ヒラスズキ1尾(全長77.0cm、体長65.5cm、湿重6.9kg、413号水槽)が死亡したが、解剖したところ過熟卵をもっていた。
- 4月1日 ミズヒキゴカイ科の一種(*Timarete* sp.)が、228-5号水槽(30ℓ、開放式)のガラス面に産卵した。
- 4月20日 ハナオトメウミウシが、予備水槽でヤギ科の一種のポリプを摂食した。一方、トゲナシヤギとウミウチワのポリプは摂食しなかった。
- 5月25日 カゴカキダイ幼魚2尾(210号水槽)が、展示対象動物のウシエビ12個体の触角を食べ、すべて短くしてしまっただけのため捕獲した。カゴカキダイは水槽内で自然繁殖するイソギンチャク駆除者として収容していたもの。
- 5月26日 ヒラタブンブク1個体を217号水槽(「棘皮動物 ウニ綱」)に収容したところ、30分ほどでノコギリウニがヒラタブンブクに集まってきた。取り出してみると、体表にかじられた痕跡があった。
- 6月3日-11月7日 スズメダイ科4種(オヤビッチャ・ロクセンスズメダイ・シマスズメダイ・コガネスズメダイ)の産卵と卵保護行動が410-2,3号水槽(「スズキ目カゴカキダイ・チョウチョウウオ・キンチャクダイ・スズメダイ・ベラ・ブダイ各科」)で見られた。卵は水槽のエポキシ樹脂塗装壁面と水槽中央のコンクリートブロックに産みつけられた。オヤビッチャ(成魚12尾)については6月4日~11月7日に61回以上、ロクセンスズメダイ(成魚10尾)は6月3日~11月5日に34回以上、シマスズメダイ(成魚11尾)は7月5日~9月27日に10回以上、コガネスズメダイ(成魚11尾)は6月24日~7月26日に5回以上の産卵を確認した。6月3日の水温は22.4℃、11月7日は20.3℃だった。
- 6月5日 マメタワラ1株を小石に縛りつけ、403号水槽(「岩礁 黒潮の豊かな恵み」、水量24.4m³)にアオブダイ類の幼魚の餌として投入してみたところ、数時間後にはシラヒゲウニ8個体が群がった。
- 7月7日 ニセクロナマコ5個体の放卵放精が403号水槽(前出)で16時ごろ見られた。
- 7月9日 北浜での潜水採集時に、3m以浅でマダコ・トゲモミジガイ・オオトゲトサカなど多数の死亡動物を目撃した。5日から7日にかけての大雨(田辺市上秋津414mm)により表層水の塩分濃度が極端に低下したことが原因だと思われた。これに関連して、北浜に近い塔島周辺浅所のウミトサカ類が壊滅状態にあることを久保田 信 准教授が確認した(紀伊民報7月24日付)。
- 8月1日 201号水槽(「刺胞動物 花虫綱」)で、カゴカキダイがサンゴイソギンチャク5個体のうち1個体を突っついて剥がし取ったのを目撃した。翌日、そのイソギンチャクは水槽内のどこにも見当たらなかったことから、カゴカキダイが捕食したものだと思われた。カゴカキダイ2尾は、小型イソギンチャクの駆除者として2008年8月から収容していた。その頃、サンゴイソギンチャクが目立って縮退していたが、その原因はカゴカキダイによって突っつかれることによるものと判断し、翌日にカゴカキダイをこの水槽から捕り出した。
- 8月23日 マアジ数十個体が226号水槽(「群れをつくる小魚」、水量43.2t)で21

時ごろ放卵放精し、水槽が白濁した。

- 9月 4日 305号水槽（「川と海を行き来するエビ類」、水量236ℓ、淡水）で、ナミウズムシ（2008年10月頃より多数自然繁殖）が急に見られなくなった。
- 9月 9日 チグサミズヒキ2個体の生殖遊泳が、407号水槽で15時30分頃に見られた。
- 10月19日 ロウニンアジの長期飼育個体が101号水槽で死亡した（全長111cm、尾叉長97cm、体長89cm、湿重20.5kg）。1992年頃から十数cmの幼魚から育てたもの。
- 11月 6日 ノコギリウニ1個体（403号水槽）が、ミナミウツボの死体を約15本の棘を寝かせ、抱え込むようにして摂食していた。
- 11月10日 イソギンポが淡水中で二日半生存した。タコの水槽（208号水槽）で繁殖するニホンウミケムシを駆除する目的で淡水を張ったが、その中にイソギンチャク駆除者として収容していたイソギンポ1尾を回収することができず、そのまま淡水中に放置した状態になった。3日後に水槽の大掃除をしてから、海水に復旧したが、その翌日にはこれまでと同じように泳いでいるのが見られた。淡水を張っていた時や掃除中には、岩組みの表面にセメント付けされているオオアカフジツボの殻の中に避難していたようである。
- 12月 4日 イトマキヒトデ1個体（216号水槽）の放精が13時30分頃見られた。

7. その他

- 2月23日-3月16日 第1水槽棟東側の外壁上方に設置した看板（「水族館 京都大学臨海実験所」）の補修・塗り替え工事が行なわれた。
- 3月9日-10日 加藤哲哉 技術職員が、平成20年度京都大学総合技術研究会に参加し、ポスター発表を行なった。タイトルは「京都大学白浜水族館における一般参加型体験学習イベントの実践」。
- 3月12日 小林龍二 氏（蒲郡市竹島水族館）が視察に訪れた。
- 3月25日 技術職員採用試験受験希望者1名が職場見学に訪れた。
- 3月30日 水族館検討会を開いた。
- 4月 4日 松本朱実 氏（動物教材研究所）が視察に訪れた。
- 4月 8日 閉館時刻が17：15（入館は16：45まで）と従来より15分短縮された。これは職員の勤務終了時刻が15分短縮されたことに伴う処置。
- 4月8日-27日 第2水槽棟屋上の防水シートの補修工事が行なわれた。
- 4月27日 水族館検討会を開いた。
- 5月14日 クジラが田辺湾奥の内之浦湾に迷い込んだとの情報が入り、田辺市観光協会から同行・調査の依頼があったが、当館では対応できない旨を告げた。このクジラはマッコウクジラ（推定体長15m、重さ50 t）で、マスコミにも大きく取り上げられたが、6月2日に自力で田辺湾外に去った。
- 5月21日 京都大学理事2名の視察に随行した専門職員に、水族館の営繕要求箇所現地説明を行なった。
- 6月1日-2日 山本泰司 技術職員が日本動物園水族館協会第75回近畿ブロック水族館飼育係研修会（鳥羽水族館で開催）に参加し、研究発表を行った。タイトルは「ミニバイクのヘッドライトを転用した水槽補助照明」。
- 6月23日 水族館検討会を開いた。
- 7月24日 入口にAED（自動体外式除細動器）を設置した。
- 7月24日 海藻餌料として使用中の鳴門産ワカメが産地偽装で、大部分が中国産

であることが報道された。8月19日にはこれまでと異なるメーカーの鳴門産ワカメが納入されたが、一袋150円から250円に値上げになり、量も一袋500g（塩分70%）から250g（塩分60%）に減った。

- 8月13日 河川から流出したと思われるゴミが、強い南西風により南浜に大量に漂着した。9、10日に四国地方を襲った豪雨によってもたらされたものと思われた。その後、同様のゴミが9月6日にも漂着した。
- 8月19日 山本泰司 技術職員がフィールド科学研究センター（京都）で、次年度の技術職員採用希望者に職場説明会を行った。
- 8月31日 次年度採用の技術職員1名（水族館飼育展示係）採用二次試験（3名受験）を研究棟で行った。
- 10月 8日 台風18号（1時頃、潮岬東沖通過）の風雨により、第1水槽棟と第2水槽棟のジョイントホールから浸水し、観覧通路の天井が一部崩れた。また工作室内へスリット窓から雨水が吹き込んだ。
- 10月22日 白山義久 教授が白浜町中央公民館主催「老人大学」で講義を担当し、博物館実習生（1. 教育・研究の項参照）も聴講した。
- 10月28日 水族館補修工事の打ち合わせを、担当技術職員、農学部施設課・経理課の職員と施工業者とで行った。
- 11月18日 水族館各所の補修工事が始まった（翌年3月8日まで）。水槽の漏水対処・クラック補修・建具取り換えなど、工期を3期に分けて行なわれた。
- 11月19日・20日 加藤哲哉 技術職員が、第34回京都大学技術職員研修会に参加した。